

Shinran  
500<sup>th</sup>  
800<sup>th</sup>

京都教区

2021年5月1日発行

# 慶讃だより 創刊号

△慶讃テーマ▽

南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう



● 発刊にあたり（あいさつ）

来る二〇二三年三月・四月の宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要に向けて、京都教区「慶讃だより」を発行する運びとなりました。

この「慶讃だより」は、京都教区慶讃事業推進委員会「教化広報部会」が編集発行を担われ、特に「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」という慶讃テーマから問われてくる私たちの課題や一人ひとりの深奥に脈打つ真の願いを掘り起こすものとして、様々な方にご執筆いただく企画を中心に発行されてまいります。また、その他、慶讃法要に向けて管まれる京都教区の取り組みの情報などを掲載し、京都教区の皆様の慶讃法要への歩みを確かなものとしていくことが願われています。

最後に、「教区教化は教区人の手で」という願いのもと、編集発行にご尽力くださる関係者の方々に敬意を表し挨拶に代えさせていただきます。

京都教務所長 日野 隆文

● 発刊にあたり

● 慶讃テーマから問われてくること

● 慶讃テーマ委員

● 8地区より

● 慶讃事業推進委員会発足



## 南無阿弥陀仏

人と生まれたことの  
意味をたずねていこう

慶讃法要テーマに関する教学委員会委員

慶讃  
テーマ  
委員

白山 勝久

しらかやま・かつひさ  
東京教区 西蓮寺

ご本山の築地塀に長きに亘って掲げられ、道行く人びとに訴えかけてきた先の慶讃法要のスローガン「生まれた意義と生きる喜びを見つけよう」。それから五十年の時を経て、現代においてどのような言葉に出会えるのだろう。テーマ委員にとって、楽しみでもあり、不安でもありました。

委員会では、言葉を紡ぎ始める前に「現代はいかなる時代であって、私たちはどのような課題に直面しているのか」ということを語り合いました。

語り合うなかで「居場所の喪失」ということがキーワードとして上がりました。「私の居場所はどこだろう」「私はここにいていいのだろうか」

か。多くの人が不安を、寄る辺なきを抱えています。「私は、ここにいていいんだ」ということを表現できたら……。そこからテーマを紡ぐ旅が動き始めた気がします。

委員会において「名前を呼ばれると、ここに自分がいていいんだと思える。名前を呼ばれるということは、そこが自分の居場所になるということだと思えます」「名前を呼ばれるといえば、お念仏を称えることも、阿弥陀さまから名前を呼ばれていることだよね」というやりとりがありました。「南無阿弥陀仏」と念仏を称えることは、称えている私が阿弥陀から呼ばれているということ。念仏は、いつでも、どこでも、だれでも称えることができず。つまり、いつでもあっても、どこであっても、だれであっても、念仏を称えたその場所（境遇）が私の居場所として明らかになるということです。

親鸞聖人は「人間」という言葉に「ひととうまをいふ」と左訓をされました。そのことはつまり、「人として生まれたということは、関係性を生きるものとして生まれたということ」の確かめです。私は、私だけで完結して生きていくのではありません。他者やさまざまな事柄との関係を生きています。関係を生きていくとい

うことは、楽しいこともあれば悲しいこともあります。「念仏を称えたその場所（境遇）が私の居場所」と言われても、その境遇に悲しみを感じている人もいます。その悲しみのなかを、どうして生きなければならぬのか、どうすれば生きていけるのか。そのようなことを尋ねることが、仏法聴聞の出発点となります。

「生まれた意義と生きる喜びを見つけよう」「人と生まれたことの意味をたずねていこう」と言われたとき、個人的な「意義」や「意味」を考えませんか？けれど、「意義」や「意味」は、他者との関係性において問い尋ね続けられるものです。「人と生まれた」ということを大切にしたいのです。

人と生まれた悲喜を縁として、聖人の教えに出会い、生涯仏法聴聞の歩みをされてきた先達がいまいます。その人の姿が、後を生きる人へと伝わり、現代を生きる私にまで念仏が伝わりました。そして、私が念仏を称える姿が、また後の人へと繋がっていきます。教えを聞いた私が、教えを伝える私となります。聖人の「誕生と立教開宗」とは、聖人の身に起きたことの慶讃ではなく、私の居場所が明らかになる法（念仏）が、現代にも届いていることの証です。

湖南

谷 大輔

たに・だいすけ  
近江第二組 良覺寺

二人の女性が賢者に教えを請いました。

一人の女性は若い頃に夫を裏切ったことを後悔し自分を責め続けていました。もう一人の女性はこれまで罪を犯したことはないと自負し、清廉潔白に生きた自分に満足していました。

賢者は罪に苦しむ女性に、「できるだけ大きい石を一つ持ってきなさい」と言いました。そして罪を犯した覚えがないという女性に、「小さい石を、できるだけたくさん袋に集めて持てきなさい」と命じました。

言われたとおり石を持ってきた二人に、賢者はそれを元へ戻すように命じました。大きい石はすぐ元の場所へ返すことができました。しかし、小石は数も多く、運んできた場所も覚えていないので、戻すことができませんでした。

賢者は罪に泣く女性に言いました。「あなたは犯した罪をはっきり心に留めている。このこ

とは人として生きていくうえで最も大事なことなのだ」。

賢者は罪の自覚のない女性に言いました。「多くの小さな罪を犯し続けてきたあなたは、いつ、どこで、どのような罪を犯したか覚えてさえいないのだ。ちっぽけな罪を犯すことに慣れ、罪を深めてきた自分を知らなさい」。

ロシアに伝わるトルストイの民話です。

我々はこの二人の女性の在り方を両方持っています。生きていけば誰しも大きな罪を犯したことがあるはず。そのことは忘れませんし後悔もします。しかし、生活の中で無意識に犯している日常的な罪については忘れてしまいますし、罪を犯した自覚すらありません。

他者と共に生活すれば思い通りにならないイライラから、しなくてもよいことをし、言わなくてもよいことを言い、思わなくてもよいことを思うのではないですか。老病死をはじめ、思い通りに生きられない現実を抱え、成りたくない自分に成ったとき、こんな自分でなかったらよかったのにと自分で自分を捨捨てしてしまうことはないですか。そういったことを罪といえます。我々はそういった罪を犯すことが常態化していますから、いちいち覚えてもないの

です。

南無阿弥陀仏は人の状態を救うのではなく、人そのものを救う法です。罪を犯して生きている我々を、罪を犯さない者に変えて救うわけではない。犯しているけれど自覚もなく忘れている罪を罪として言い当て、そのことを手がかりにして、罪を犯す根本にある愚かさを教えてくださる。つまり我々の生活の中で犯している罪が南無阿弥陀仏のはたらく場所なのです。

人と生まれたから南無阿弥陀仏の教えが聴聞できる、だから人と生まれたことが尊いという論調の言葉を聞くことがあります。果たしてそうでしょうか。人と生まれてしまったからこそ愚かさを抱えてしまった。人と生まれたからこそ、迷い、悩み、苦しむ。人と生まれたからこそ無意識に罪を犯してしまう。だから人と生まれたという事実が南無阿弥陀仏の教えを必要としているのだと、私は思います。

南無阿弥陀仏の呼び声は、あなたは南無阿弥陀仏に救われなければならない存在なのです。よという響きでしょう。その響きを私は南無阿弥陀仏に救われなければならない者でありました、という自覚として信じ受け止めるのです。

## ●慶讃事業推進委員会各専門部会委員（2020年7月設置）

| 総合調整部会<br>(○●◇◆の委員で組織する) |      |    |        |     |    |         |      |    |
|--------------------------|------|----|--------|-----|----|---------|------|----|
| お待ち受け大会部会                |      |    | 教化広報部会 |     |    | 団体参拝部会  |      |    |
| 氏名                       | 組    | 地区 | 氏名     | 組   | 地区 | 氏名      | 組    | 地区 |
| 東口 眞由美                   | 山1   | 山城 | 仁科 洸   | 山2  | 山城 | ○川嶋 正   | 山1   | 山城 |
| ○井上 啓子                   | 山2   | 山城 | 平原 晃宗  | 山5  | 山城 | 柴田 慶三   | 山1   | 山城 |
| 山本 靖                     | 近2   | 湖南 | ●沙加戸 崇 | 近1  | 湖南 | 中谷 哲夫   | 近7   | 湖東 |
| 谷 大輔                     | 近2   | 湖南 | 山本 滋   | 近1  | 湖南 | ◇深尾 浄信  | 近7   | 湖東 |
| ●堀江 勇夫                   | 近6   | 湖東 | 増田 義弘  | 近6  | 湖東 | 平野 寛城   | 近10  | 湖東 |
| 高木 淳                     | 近25西 | 湖西 | 藤川 秀行  | 近6  | 湖東 | 桂 喜八郎   | 近11  | 湖東 |
| 三原 隆応                    | 若狭1  | 若狭 | 蒲池 義圭  | 近11 | 湖東 | ◆田中 正章  | 近25西 | 湖西 |
| 井本 徹                     | 丹3   | 丹但 | 比叡谷 真  | 近26 | 湖西 | 川那邊 章   | 近26  | 湖西 |
| 藤枝 良太                    | 因伯   | 雲因 | ○藤浪 遊  | 石東  | 石見 | 中島 正泰   | 丹3   | 丹但 |
| 前田 賢龍                    | 石西   | 石見 | 河野 恵嗣  | 石東  | 石見 | ●壽老 長吉郎 | 石東   | 石見 |

◇…慶讃事業推進委員会委員長、◆…副委員長 ○…各部会幹事、●…副幹事（2021年5月1日現在）

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要を勝縁とし、慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」のもと、お待ち受け大会、慶讃法要への参拝、各組・各地区慶讃法要という流れを作り、念仏者の誕生を願いとして、教区慶讃事業を推進してまいります。

きょうきほうさん た

### 慶喜奉讃に起つ 記念法話 池田勇諦氏 講題

「真宗本廟お待ち受け大会・本廟創立七百五十年記念大会」（2021年4月5日）の様子が宗派YouTubeサイトに公開されています。慶讃法要をお迎えするにあたり、ぜひとも宗務総長挨拶（40分頃）、池田勇諦氏の記念法話（1時間34分頃）、門首挨拶（2時間20分頃）をご視聴ください。

- 宗派慶讃法要特設サイトから門首、宗務総長の挨拶文もダウンロードできます。
- また、「慶讃テーマ」についての法話動画も随時更新されていますので合わせてご視聴ください。

✓ 要チェック!



慶讃法要

検索

真宗大谷派 京都教区 『慶讃だより』創刊号  
 発行人 日野 隆文（真宗大谷派京都教務所長）  
 発行日 2021（令和3）年5月1日  
 発行所 真宗大谷派京都教務所 Tel：075（351）5260  
 〒600-8164 京都市下京区花屋町通烏丸西入  
 Eメール kyoto@higashihonganji.or.jp  
 表紙絵「蓮華～泥土に華、展かれる刻～」伊藤はるか

真宗大谷派京都教区ホームページ

京都教務所

検索



### 編集後記

先日、昨年は中止したお寺の春の法座を2年ぶりに開くことができました。その際、去年の春の記憶がぼんやりしていることに気づきました。いろいろな意味で、新型コロナウイルスを縁とする「今」を感じずにはおれません。▼そのような「今」、今号より『慶讃だより』をお届けいたします。巻頭の「発刊にあたり」に記されている願いのもと、季節ごとのお届けを計画しています。法要を縁とした、ともなる歩みの一助になればと思っています。書き下ろしの表紙絵も楽しみにしていただければ幸いです。

（教化広報部会 幹事 藤浪 遊）